

感染予防対策に最適!



無光触媒コーティング

抗菌・消臭
抗ウイルス

光エネルギーを必要とせず、24時間働き続ける触媒!

抗菌・消臭、防汚、防カビ、シックハウス対策、ウイルス予防対策等にご使用いただけます。



飲食店・スナック・オフィス・アミューズメント施設
・スポーツジム・カラオケなどに最適!!



施工後には施工完了書
施工済みシールを発行致します。



特徴 1 リン酸チタニアを主原料に
安全・安心な完全無機溶剤

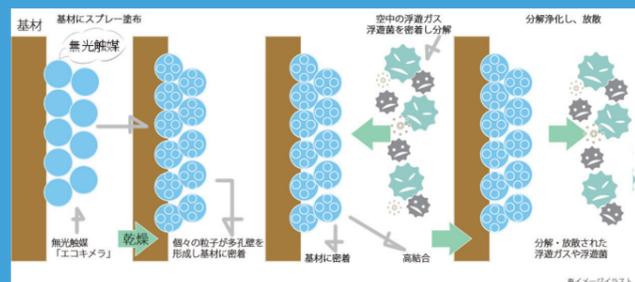


環境保護を考え、しかも強力に抗菌・消臭・防汚などを行います。「エコキメラ」は人や動植物に害はなく、たいへん安全な完全無機質の物質「リン酸チタニア」を主原料にしています。

特徴 2 光を必要とせず長年にわたる効果



「エコキメラ」は光を必要とせず、空気中にふくまれる水分子を取り込み酸化還元作用により触媒反応を起こすと考えられ、暗い室内でも抗菌・消臭・防汚・防カビなどの高い効果が期待できます。



特徴 3 エコキメラの
分解密着メカニズム (推論)

水生タイプ	SRW-30
組成	リン酸チタニア系化合物
効能	主効果：硫化水素・ホルムアルデヒド・アンモニアなどの消臭 副効果：防カビ・防汚

建物の高气密化、身体に有害な化学物質の使用によるシックハウスやシックスクール、シックビル対策をはじめ、自分では気付かない「家の中にニオイ」にも効果的。また、生活菌や耐性菌に効果が高く、その効果の持続力も期待大です。

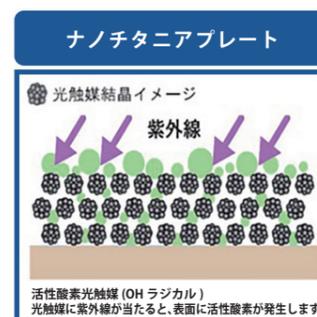


一度でキレイ、
ワンパス除去率 No.1

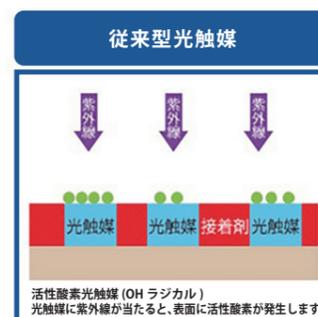
酸化チタン光触媒搭載空気清浄機
プリマヴェーラ

「ナノチタニアプレート光触媒」で有害物質をすばやく分解!

光触媒である酸化チタンは、光を当てるだけで「菌」や「におい」を無害な物質に分解する特性があります。空気清浄機プリマヴェーラに搭載した独自技術の光触媒は従来型に比べ、接着剤を使用しないナノレベルで微細化した光触媒を使用し表面積が格段に広がり、高い分解能力を発揮します。



ナノ微細化した酸化チタン光触媒
ナノチタニアプレートがウイルス
微細物質を強力吸着、徹底分解



酸化チタンが接着剤に埋もれているため、表面積が小さく能力を十分に発揮できない。

6つのステップで
空気の汚れを除去



OP-Z201A 対応畳数： ~20畳 (32.4㎡)

除菌・脱臭機能 99%以上
集塵能力 99%以上
高性能な多機能フィルターでミクロン単位の粒子もろ過
マイナスイオンでリラックス効果
独自技術のナノチタニアプレート光触媒により除菌・抗ウイルス効果
メンテナンスではフィルター交換が早い・簡単
壁掛け設置も可能 (取付金具はオプション商品)

抗ウイルス!!

集塵 集塵能力99%以上



詳細は無料にてお見積りをさせていただきます!
国や自治体の補助金、助成金についても
サポートさせていただきます。

販売代理店も
募集しております。
お気軽にお問い合わせ下さい。



株式会社JT-TRUST
北九州市八幡西区黒崎 2-9-17 アルカナビル 2F
TEL:093-482-6977 FAX:093-482-6978
<https://jt-trust.jp/>

PDCA サイクルは、理想的な管理業務のように感じられるため、積極的に採用してみたいくなります。しかし、実際に回してみると上手くいかないことも多いのが実情です。PDCA サイクルを上手く回すことだけを念頭に置きすぎて計画倒れしてしまうことすらあります。PDCA サイクルを成功させるためには常に業務に合わせてサイクルを回していくことが大事になります。ここからは、PDCA サイクルを上手く回していくためのポイントについて説明していきます。



評価や改善を いい加減な形で 実践しない



評価と改善の段階は 2 周目以降のサイクルにとっても重要なことが分かります。しかし、実行の段階である程度結果そのものは見えてくるので、「こうすれば上手くいくだろうと」軽く考えてすぐに 2 周目に移ってしまうと問題が起きてきます。PDCA サイクルはしっかりと Check と Action の段階で業務をこなさなければ、決して上手く回ることはありません。そのため、結果が出た場合は必ずレポートをとっておき、そのレポートをもとにして評価・改善業務をしっかりとこなすようにしましょう。

しっかりと目標と 目指すべきゴール を定めておく



PDCA サイクルが上手く回らないケースでは、業務における目標やゴールを曖昧にしていることが多いです。目指すべきビジョンが明確でない場合、サイクルだけを回すことだけで満足し、肝心の業務に関しては何一つ良い進展がないということもあります。「何のために PDCA サイクルを回しているのか」をしっかりと念頭に置いて、当初定めたゴールを達成できるように業務を改善させていきましょう。

サイクルが回って いるのかをこまめ に確認する

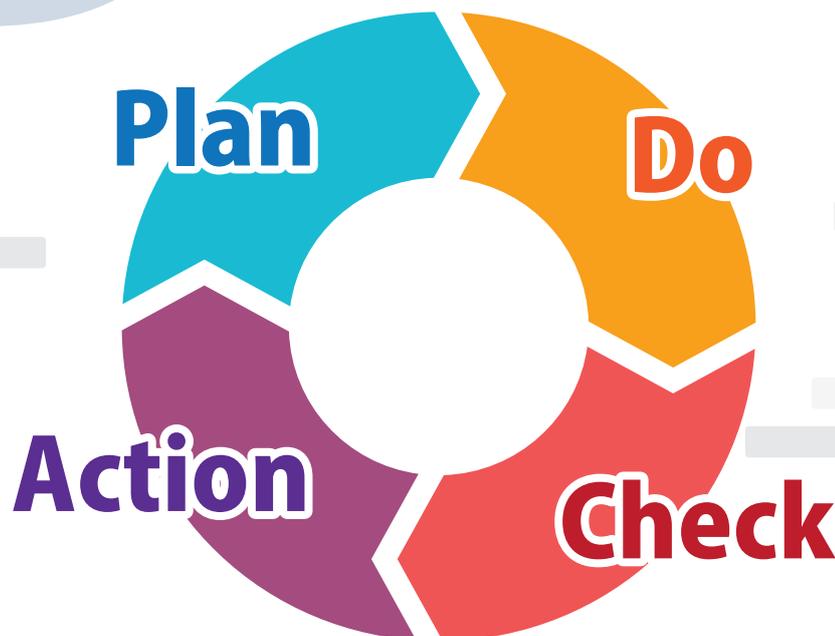


業務の進捗状況をチェックしサイクルが回っているかどうかの確認をする作業は、意外と見落とされがちです。「サイクルを回すだけで満足しない」、「サイクル及び業務の進捗ごとにしっかりと議論やチェックを交える」ことが重要になります。常に目を光らせておきたいです。

今さら
聞けない

PDCA サイクルとは

PDCA サイクルとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のことです。



Plan : 計画する

目標を設定し、業務計画を作成する段階のことです。まず、解決したい問題や利用したい機会を見つけて理解を深めます。そして、目標における情報を収集し、解決策を考え、計画を立てていきます。

Check : 評価する

計画に沿って実行出来ていたのかを評価する段階のことです。この段階で試してみた解決策の結果を計画の時の予想と比較して分析し、解決策が有効かどうかを評価します。

Do : 実行する

立てた計画を実際にやってみる段階のことです。問題を解決するための方法を見つけたら、少しずつ試してみてください。試す際にはその方法が有効だったか無効だったかも記録しておきましょう。次の段階で使えます。

Action : 改善する

実施結果を検討し、業務の改善を行う段階のことです。計画し、実行した結果をCで評価し、最後のAで実行します。



PDCA を回すことによって、今まで行っていた業務の問題点が見えてきます。
PDCA のポイントを押さえて、業務をどんどん改善していきましょう。